

戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に

明けましておめでとう
 会員の皆様におかれましては、ご家族お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

今年もまた、こうして穏やかな新年を迎えることができました。このよ

うな当たり前の事も先の大戦において、かけがえない尊い一命をささげられた多くの戦没者皆様の礎の上に築かれていることに想いを致し、新春にあたり心から戦没者の皆様に哀悼と感謝の誠を捧げたいと思います。

昨年の全国戦没者追悼式典において、新しく即位された天皇陛下のお言葉では、戦後の長きにわたる平和な歳月に想いを致しつつ、ここに過去を顧み、深い反省の上に立って再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願うとお言葉を述べられました。「先の大戦の反

省の上、再び戦争をしない平和な国であることを願う」は、お気持ちが強

く感じられるお言葉でした。このお言葉のように、戦没された方々に日本はいつまでも平和で穏やかな国であることを誓い、その実現に努めていくことが私たちの責務であります。

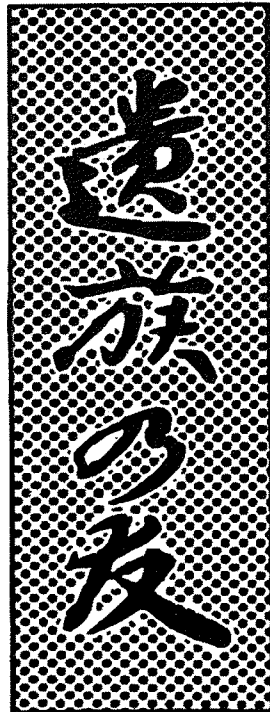
そのためには、大会スローガンにも掲げられています「二度と再びあの忌まわしい戦争を繰り返さない。戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に語り継ぐこと」の大切さをしっかりと心に刻み、わたしたちに残された時間は多くはありませんが、取り組む年、それが令和二年であることを切望いたします。

結びに、ご遺族の皆様にとって今年一年が実り多い年でありませう、益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます、新年のご挨拶いたします。



滋賀県遺族会
 会長 大長 弥宗治

新年のご挨拶



発行所
 一般財団法人滋賀県遺族会
 滋賀県大津市におの浜4丁目2-34
 滋賀県遺族会館
 電話 (077)522-7227
 FAX (077)522-7233
 発行責任者
 滋賀県遺族会会長
 大長 弥宗治

令和元年度滋賀県戦没者遺族大会

県内各地から約800人が参加

総務企画部会長 竹井 昌夫



知事表彰を受ける草津市の木村正昭さん

令和元年度滋賀県戦没者遺族大会が10月27日、東近江市立八日市文化芸術会館で実施されました。水落敏栄日本遺族会会長をはじめ、15人の県議会議員を含む大勢の来賓を迎え、県下各地から約800人の遺族会員が参加しました。主な来賓は、由布和嘉子滋賀県副知事、細江正人滋賀県議会議長、小椋正清東近江市市長、武村展英衆議院議員、上野賢一郎衆議院議員、小鐘隆史参議院議員らで、衆議院議員大岡敏孝氏、小寺裕雄氏、参議院議員嘉田由紀子氏については代理出席でした。

第一部では、開会の言葉・国歌斉唱・英霊に対して黙祷、大長弥宗治滋賀県遺族会長の挨拶に続き、戦没者遺族に対する援護事業に貢献され

た方々に知事表彰5人、滋賀県遺族会長表彰24人に表彰状が授与され、被表彰者を代表して草津市の木村正昭さんが謝辞を述べられました。

続いて、由布和嘉子副知事、細江正人議長、小椋正清市長、水落敏栄日本遺族会会長より祝辞をいただきました。

次世代戦跡訪問研修体験発表では、地元東近江市立朝桜中学校の奥野来美さん・林流以さん、永源寺中学校の二見光さんの3人が発表してくれました。知覧の特攻平和会館での講話、研修で感じた



混声合唱団サンデーエコーの皆さん

思いや富屋食堂での感激が素直に伝わり好評でした。次世代戦跡訪問研修や発表にかかわっていただいた皆様ありがとうございました。

最後に、松浦友一東近江市遺族会会長が大会宣言(案)決議(案)を朗読。参加者全員が拍手で承認し、採択されました。

第二部では、東近江市を中心として活躍されている混声合唱団サンデーエコーの皆さん、団長水敬造さん、指揮者荒木光さん、ピアノ伴奏田中和美さんで、童謡メドレー「いつの日か」と題しての質の高いハーモニーを

近くなった父親との距離

令和時代最初の滋賀県戦没者遺族大会が10月27日、東近江市立八日市文化芸術会館で開催されました。私たちが総務企画委員会の担当事業で多くの応援をいただき、無事終えることができました。

昨年からの第二部の催し物を委員会の手作りで行うということになり、昨年度は八日市飛行場をテーマとした朗読劇を行いました。今年度は満州国の生活とシベリア抑留をテーマで朗読劇

「留」をテーマで語る。また、シベリアでの抑留生活の様子、大地の凍る中で十分な食事も与えられず、重労働で多くの方が亡くなっていった事実が痛みます。最後に、端信行平和祈念館館長に総括まとめをしていただきました。満州国の設立からシベリア抑留までの流れを時系列に解説していただきました。

を行いました。事前の打ち合わせ会議で、私の父親がシベリアに抑留され戦死したことを話しましたところ、山川芳志郎副会長が田邊さんの父親にスポットを当ててやろうと言われ戸惑いました。

そこで、いろいろ調べていく内に、今まで遠かった父親との距離が縮まり、近くなった気持ちになりました。それまでは戦後苦労して生活をしてきた母親を見てきて、父親のことはあまり関心がわきま



田邊昭男さんの父・藤八さん

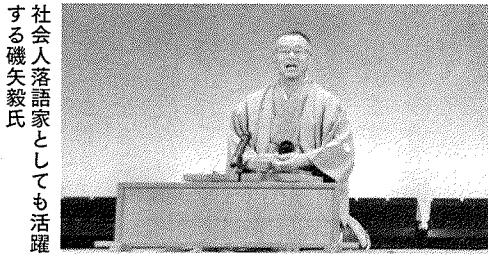
せんでしたが、今回のことで戦争というものがあるのか、この事実を語り継がなければならぬという思いが強くなりました。この記事を読んでくださった皆様には、せめて家族の方々、特に孫・ひ孫の方にこのことを語り伝えていただきたいと思います。今回私たちが行った朗読劇はやった甲斐があったと思います。(総務企画部会長 田邊 昭男)

タメになるお薬の話

女性部会 野村 しげ子

令和元年度女性部研修会が10月11日、近江八幡市の滋賀県立男女共同参画センターで、滋賀県遺族会役員・女性会員187人が参加して開催されました。

大長弥宗治滋賀県遺族会長の挨拶に続き、木津美智子女性部担当副会長が挨拶されました。



講演では、講師に磯矢毅薬劑師をお迎えし、「笑いは心のくすり」と題して、

気をつけよう。複数の病院通いの人はお薬手帳を一冊にして必ず持参して受診することが大切である。

自由民主党国会議員・県議会議員とのつどい

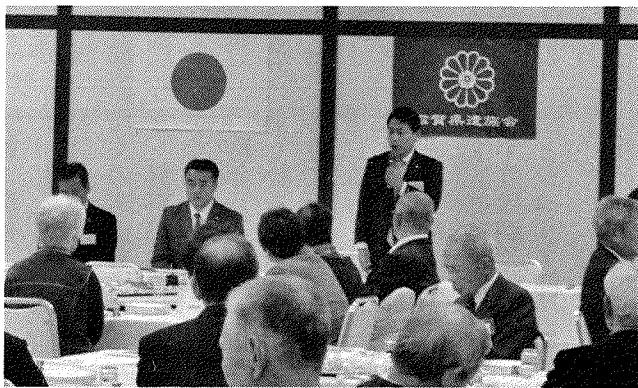
国と県に5項目を要望

令和元年12月1日、大津市のアヤハレークサイドホテルに於いて滋賀県遺族会役員、各都市遺族会長等100余人参加のもと、「自由民主党国会議員・県議会議員とのつどい」が開催された。

①滋賀県戦没者追悼式および英霊顕彰事業について

②青年部の育成について

③全国戦没者追悼式の滋賀県からの参加者数の拡大について



つどいで挨拶する武村展英衆議院議員

④戦没者の未帰還遺骨および遺品について

⑤戦没者遺族に支給される「特別弔慰金」の支給対象範囲の拡大について

現状の支給対象範囲である戦没者の「子」までではなく「孫」までの拡大をお願いしたい。

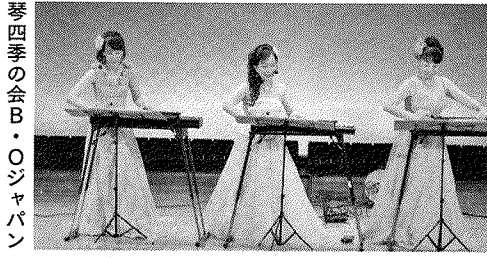
その後、自民党各議員から一言ずつご挨拶をいただいた。次に、参加者全員で「靖國神社の歌」を斉唱して懇親会に入った。各都市町別にテーブルに着いて、賑やかに意見交換を行い、盛り上がった集いとなった。

(広報 田中 靖俊)

女性部研修会

女性会員の高齢化で継続厳しく

女性委員会 長谷川 あさ子



組織の中心的役割を担ってきた女性の高齢化が進む中、戦

没者の女性遺児は、本会組織の継承者であるとの認識のもと、頑張ってきたが、全ての人が後期高齢者となり参加することが困難になって参りました。

各都市町の女性委員は決められた参加人数を集めるのが必死でした。今の女性は、ほとんどが車の免許を持っておられますが、私たちの若いときは免許を持っ

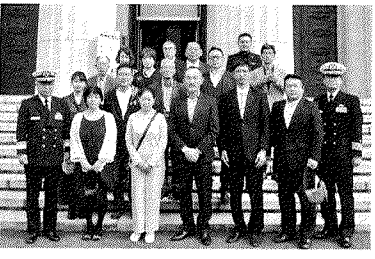
ている人は生まれでた。そうかと言って、電車に乗るのも足腰が弱ってきたので大変です。近くの駅に行くのも家族に世話にならないといけない。これからは研究会や会議も県全体で集まることに限界を感じます。

お母さんたちは夫を亡くし必死で頑張ってきた。私たちが育ててくださったことは重々分かります。

ですが、世の中が便利になって楽をしたのがいけないのかもしれない。女性部研修会は台風19号が接近する中でしたが、そんなことも忘れて半日を楽しく過ごせたように思います。参加すれば、得ることは必ずあるのです。これからは青年部の方にバトンタッチしていただくことを望みます。

祖父ゆかりの広島で研修

青年委員会 甲斐 聡美



昨年度に続き、本年度も青年部研修会に参加させていただくことができました。まずは、このよ

うな機会を与えてくださいました。遺族会の方々と、理解ある家族、またこのことを見守ってくださいます英霊の皆様感謝いたします。

さて、今回は令和元年10月19日から20日にかけて広島・呉方面での研修でした。広島市の宇品港は、祖父が比島へと向かった港です。京都第十六師団第二十連隊垣兵として見知らぬ国へと向かったのです。祖父がどのような思いで広島に向かったのか、今は誰も知るよしがありません。23歳の若さで比島レイテ島で戦死したことも、6年前に調べて初めて分かったことです。ただただ、祖父の生きたその場所を辿ることを

天国の祖父は導いてくださいます。悪い部分です。広島市長も、核兵器廃絶への動きの停滞を危惧し、日本政府へ唯一の戦争被爆国として核兵器禁止条約への署名・批准を求め、被爆者の思いを受け止めるよう訴えられました。

命は守らないといけないのです。何度か広島には足を運んでいますが、来るたびに戦争犠牲者の苦しみや二度と繰り返してはいけないという思いが強くなっていきます。

この地で起きた悪夢は、一人ひとりの心から消すことはできません。我が子を呼ぶ父母の姿があったことでしょうか。水を求め、苦しむ人の姿があったことでしょうか。このような状況でありながら人と人とのつながりや学びもあつたはずなんです。

昨日に伺った海上自衛隊幹部候補生学校(旧海軍兵学校)の学校長から詳しくお話を聞くことができました。米英にと次世代の子どもたちに、愛ある学びを提供していくこと、語り継ぐ努力を続けて行くことや、システムを計画し、進めていかなければいけません。道筋を立てる大人の役割は重要不可欠なのだと思います。自然の仕組みをおかした人間が自然の力に苦しめられて今だからこそ、戦争の過ちを繰り返すことのない学びを追求すべきです。人を大切にしていこうございました。